

話題の講義ライブ
LIVE 2012

Today's Program **地球科学入門1-ダイナミクス**

KYOTO UNIVERSITY 京都大学



人間・環境学研究科

5.18.Fri. at Kyoto
13:00~16:15
鎌田 浩毅 教授



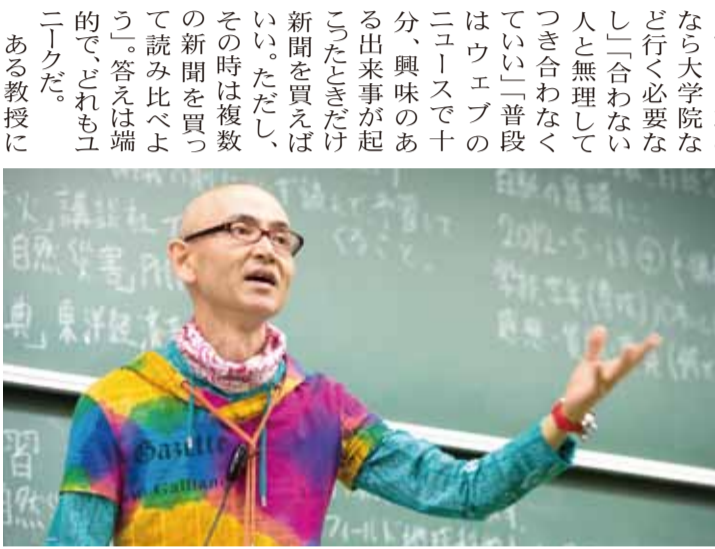
火山が噴火するメカニズムはどうなっているのか？ 地球科学を通じて学問の本質に迫る

講義の流れ
学生からの多種多様な質問に答えることから始まり、火山と地球科学について多角的に説明、最後はコミュニケーション論でまとめる。
醍醐味
専門知識として地球科学を学べるのと同時に、一般教養として生き方や勉強法・読書法、伝わるコミュニケーション術まで身につく。

「本物の京大生はわずか5%」
強烈なメッセージに込められた意図は？

カラフルなTシャツにフアッシュショナルなスピーカーで「キメた」鎌田先生。その姿は、本場に京大の教授か、と疑いたくなる格好よさだ。
講義はいつものように、学生の質問に答えることから始まった。「海外の大学院に行くべきか」「うまが合わない人との付き合い方は」「新聞を読む必要はあるのか」：「ライブ感を大切にす。先生は、その場で直ちに答えを出していく。「箔をつけるためなら大学院など行く必要なし」「合わない人と無理してつき合わなくていい」「普段はウェブのニュースで十分、興味のあふる出来事が起こったときだけ新聞を買えばいい。ただし、その時は複数の新聞を買って読み比べよう」。答えは端的で、どれもユニークだ。
ある教授に

「本物の京大生は20%しかない」と言われた学生から、本物になる方法をたずねられた先生の回答は、シヨッキングなものだった。「本物の京大生と言えるのは20%どころか5%しかいません。ただし5%に入れば、ノーベル賞も夢じゃない。自分の長所を見つけ、徹底的に伸ばすことです」。実力を育てる学び方は、先生が教えてくれる。



地球科学で大切なのは「人間のものさし」で考えないこと

講義は先生の本をテキストに進められる。テキストは前もって読み込んでおくことがルールだ。今日のテーマは火山について。火山ができるメカニズム、マグマが噴き出す仕組み、そして日本の火山が今どうなっているのか。テキストの該当ページを参照しながら、テンポよく話がすすんでいく。

かつて活火山・休眠火山・死火山の3タイプに分類された日本の火山も、今は「活火山」と「活火山以外」しかない。「100万年単位で考えれば、死火山が絶対に噴火しないと証明することなどできません。人間のちっぽけなもので安易に判断しないことです」。先生が教えてくれるのは、地球科学の考え方だ。



VOICES 学生の声 of University Students



和田 将さん (左)
経済学部1年
シラバスの「(夏目)漱石は火山学者だった?!」という一文に惹かれて受講しました。これからの展開も、とても楽しみです。火山学に加えて、古典や名著を紹介してもらえるのがうれしい。質問コーナーもあり、講義内容はバラエティ豊か。2コマ連続3時間があってという過ぎます。

野尻 勢さん (右)
総合人間科学部1年
「おもしろい話が聞ける」という評判を聞いて受講しました。確かに先生の話はおもしろい。しかも教授が一方的に自分の研究を話すスタイルじゃない点特徴的だと思います。質問コーナーでは、学生としっかりコミュニケーションを取ってくれるのも魅力の一つです。

伝えたいことを伝えるために
必要なコミュニケーションとは

講義では、先生がコメントーターを務めた12年前のテレビニュースがビデオで流された。「京都大学 鎌田浩毅教授」のテロップに、教室は大きくさわめく。画面に映っているのは、いかにも学者風のスーツに身を固めた、きまじめそうな人物。今の先生のフアッシュショナルな姿とあまりにも違う。

先生のコメント内容は、2000年に起こった北海道・有珠山の噴火について。別人に見えるテレビの中の自分を、鎌田先生は100点満点で5点だと切り捨てた。なぜなら、テレビを見ていて人のことを考えず、学会発表のような話し方をしているからだ。そのため先生のメッセージは、視聴者にまったく届かなかったという。

伝えたいことを、きちんと伝えるにはどうすればいいのか。コミュニケーションのあり方を突き詰めた結果が、現在の「鎌田スタイル」だ。緊張せずに、できるだけ難しい漢語や英語を使わずゆつくりと話す。派手な装いも、先生にとっては、学生と良いコミュニケーションを図るための大事な道具だったのだ。

すが絡んでいます。そのため因果律が成り立つかどうかについては、学者の間でも意見が分かれているのです。科学的に結論が出ていない問題なのに、温暖化ガスの削減目標や排出権取引の仕組みなど、さまざまな枠組みが先に作られてしまった。これを見て、科学者はあつげに取られているのが実情なのだ。

京都大学

- 総合人間学部
- 文学部
- 教育学部
- 法学部
- 経済学部
- 理学部
- 医学部
- 薬学部
- 工学部
- 農学部

- [沿革・歴史]
- 1869年 大阪に舎密局を設置。
 - 京都移転を経て、第三高等学校に改称
 - 1897年 京都帝国大学創設
 - 1897-1919年 法科、医科、文科、工科、理科の5大学を設置。以後、学部改称
 - 1991年 大学院 人間・環境学研究科を設置
 - 1992年 総合人間学部を設置
 - 2004年 国立大学法人京都大学となる

資料の請求およびお問い合わせ先 〒606-8501 京都市左京区吉田本町
TEL 075-753-7531 (代表)

[オープンキャンパス情報]

8月9日(木)・8月10日(金)
詳細はホームページで
ご確認ください。



▶吉田キャンパス



かまた ひろき
鎌田 浩毅先生
京都大学大学院人間・環境学研究科教授。東京大学理学部地学科卒業。専門は火山学、地球科学、科学コミュニケーション。テレビや講演会を通じて、科学をわかりやすく解説する「科学の伝道師」。講義は教養科目人気ナンバーワンで、毎年数百人が受講。主な著書に「次に来る自然災害」(2012年、PHP新書)、「座右の古典」(2010年、東洋経済新報社)、「一生モノの勉強法」(2009年、東洋経済新報社)、「地球のツボ」(2009年、ちくまプリマー新書)、「地球は火山がつくった」(2004年、岩波ジュニア新書)など多数。